

ファイアーエムブレム EXPO II 上演ドラマ
『ファイアーエムブレム 覚醒』 「商人の忘れ物」

登場人物…ルキナ、ジェローム

BGM…「」〜安

(歌唱曲「遠征〜炎」終了後)
(ジェローム登場)

ジェローム

まったく…どうして私がこのような雑用を押し付けられなければならないのだ。



ジェローム

あの行商人が忘れていったこの箱…。本当に回収しに来るのか？

(ルキナ登場)

ルキナ

ふう……。

ジェローム

ルキナか。どうした？ 疲れているようだが。

ルキナ

ああ、ジェローム。今、実は歌を歌って……

ジェローム

ではなくて、遠征任務を終えてきたところなのです。疲れたわりには、程よい達成感といった表情だな。

ルキナ

ふふっ、わかりますか。

無事に任務は達成できましたよ。

ジェローム

そうか、それは良かったな。

ルキナ

ところであなたはこんな陣営の片隅で何を？

ジェローム

実は先程、異界の行商人を名乗る女が現れて、ひとしきり騒がしく商売をしたあげく、自らの商材であろう、その箱を忘れていったのだ。

ルキナ

ああ、これですか。

ジェローム

いずれ取りに戻ってくるだろうから、それまでここで番をしてほしいと言われてな。

ルキナ

なるほど、中身は何（なん）ですか？

ジェローム

いや……購入したわけでもないし見るわけには……
つて！



ルキナ

あ、開けちゃいました。

ジェローム

ル、ルキナ！ お前はまったく……。昔から、しっかりしているわりにどこか抜けたところがあるな……！！

ルキナ

す、すみません。で、でも大丈夫です！
こうしてすぐ蓋をして戻しておけば！

ジェローム

……で、中身は見たのか？

ルキナ

え、ええ。チラツと見えちゃいました。

ジェローム

何が入っていた？

ルキナ

仮面でしたよ？

ジェローム

な、なんだと！？

ルキナ

気になりますか？

ジェローム

そ、そんなことは……ないっ！ くっ！

ルキナ

まあ、元はと言えば、

私が軽はずみに開いてしまった

ことがいけないわけで……すみません。

ジェローム

ち、ちなみに……ど、どんな仮面があつた？

ルキナ

ほら、やっぱり興味持つてるじゃないですか。

ジェローム

ぐ、ぐぬぬっ……。

ルキナ

ジェローム、こう考えてはどうでしょう？

その行商人のかたが取りに戻ってきた際、

数に不足がないか、不良品がないか、その場で確認されると思います。

こちらもこうして商品を預かっているわけですから、

中身の確認はしておいた方が良いのではないのでしょうか？

ジェローム

確かに……。ここに置いておいて、壊れたなどと

難癖をつけられるわけにはいかないからな。

よし、では確認しよう。

ルキナ

今、目が輝きましたよ？

ジェローム

なっ！？

ルキナ

ふふっ、冗談ですよ。あなたは仮面をしているから、見えるわけありません。

ジェローム

ぐっっ……さつきから何なのだ。

ルキナ

では、まず一つ目の仮面を……。



ジェローム

白い仮面……。

ルキナ

値札には、「元・黒騎士団《ブラックナイツ》の仮面」と書かれてあります。

ジェローム

名のある騎士の物なのだろうな。仮面から強固な意志を感じる……。

ルキナ

そんなことが分かるのですか？

ジェローム

あとは……少し女難の相が見えるな。

ルキナ

す、凄いですね、ジェローム。あなたの仮面を見る力は……。

ジェローム

これくらい容易いものだ。

ルキナ

そ、そうですか。では次は、これです。



ルキナ 「漆黒なる鉄仮面」、と書かれてありますね。

ジェローム これは物々しいな。この持ち主もまた、かなり高名な將軍のようだ。しかし……臭うな。

ルキナ 臭う？ へんな臭いはしませんか。

ジェローム 常人とは異なる気配を仮面から感じるという意味だ。恐らくこの騎士の素性に関わることなのだろう。



ルキナ

では次……これも白い仮面ですね。
名前は……さ、「殺戮の逸楽を求める者の仮面」！？
何やら呪われそうな仮面ですね……。

ジェローム

確かに見た目の造形の美しさとは裏腹に、
持ち主の並々ならぬ怨恨を感じる……。
この仮面は危険だな。

ルキナ

あら？ えっ……？

ジェローム

ルキナ、どうした？

ルキナ

残る二つの仮面を見てください！

ジエローム

なに？ これは私の……!？



ルキナ

こっちは私の仮面と同じです！



ジエローム

いや、よくよく見ると構造が少し違う。
なるほど、これらは模造品と呼ばれる物のようだ。
先程見た三つの仮面も本物ではないな。

ルキナ

どうして私たちの仮面を模倣して
作ったのでしょうか？

ジェローム

そういえばあの行商人……こんなことを言っていた。異界では英雄たちの装備品を模倣した物が何故かよく売れると。

皆、英雄たちの姿の真似をして、それをお互いに見せ合って楽しむのだと。私の仮面もジロジロと見ていたな。

ルキナ

そ、それは私たちを真似るということでしょうか？ 私も人のことは言えないのですが、何やら少し気恥ずかしいですね……。

ジェローム

そういう問題ではない。あの行商人め、戻ってきたらこのようなことは止めるよう、強く言っておかなくては！

ルキナ

でも箱に入っていたのはこの五つだけですが、売っているわけですし、量産しているのでは？ 今更遅い気もします。

ジェローム

くつ、確かに……もう待つてはいられない。今からあの商人を探すぞ、ルキナ！ こんなもの、販売停止にする！

ルキナ

ジェロームも真似をされるのが恥ずかしいんですね。

ジェローム

違う！ こんな模造品で私の名を騙ることが許せないのだ！ どうせ作るなら本物と遜色ない物を作れと言わねば！

ルキナ

ええっ……そっちですか？ で、ですが異界の行商人さんということなら、既にこの世界にいらっしやらないと思いますよ。

ジェローム

そうかもしれない……。だが、諦めるわけにはいかない！ いいから探すんだ！

(ジェローム去る)

ルキナ

ああ、ジェローム！ 待つてくださいー！！

(ルキナ去る)

- ・この台本は、イベント「ファイアーエムブレムEXPOⅡ」の当日に使用予定だった台本を、公開用に再構成したものとなります。
- ・台本内の表記は、ビデオゲーム上の表記と異なることがあります。
- ・無断転載、配布等の二次利用は禁止いたします。